

2018年6月18日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「福島ひまわり里親プロジェクト」のイベントを開催 ～「ひまわり」がつなぐ、復興支援の輪～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「当社」）は特定非営利活動法人チームふくしま（理事長：半田 真仁、以下、「チームふくしま」）が主催する「福島ひまわり里親プロジェクト」と共同イベントを開催しましたのでお知らせします。

1. 福島ひまわり里親プロジェクトについて

復興のシンボルとして、ひまわりの種を福島県の障がい者施設で梱包・販売し、購入者が里親として自宅や学校、公園などでひまわりを生育し、開花後に採取した種を当該施設へ寄付し、翌年また里親に販売する、というサイクルを毎年繰り返す仕組みです。東日本大震災後、チームふくしまなどの福島県の有志によってはじめられたこのプロジェクトは、道徳教育、雇用問題など社会的課題解決に資する取組みとして全国で支持され、学校、自治体、企業などさまざまなセクターの約25万名が里親になるなど、今なお継続的に展開されています。

2. コラボイベント開催の経緯

当社は、昨年復興庁主催の『「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2017』において、チームふくしまの同プロジェクトに対して、企業賞「損保ジャパン日本興亜賞」を授与しました。当社は、アジアで唯一ゴッホの《ひまわり》を所有する企業であることから、両者をつないだ「ひまわり」をテーマに、今般、チームふくしまと共同で、同プロジェクトを開催しました。

3. 当日の様子

プロジェクト当日は、新たな里親を中心に全国から約50名が参加し、ひまわりの種蒔きを行うとともに、震災後に作詞・作曲された復興支援ソング「ひまわりのうた」をゴッホの《ひまわり》の前で合唱しました。参加者からは、「今回のプロジェクトで、全国各地にいるひまわりの里親の皆さんと会うことができ、絆がより深まるきっかけとなった。」「ゴッホの《ひまわり》を観て、情熱、勇気、感動をもらった。今後も『福島ひまわり里親プロジェクト』の活動がもっと広がっていくよう、応援してもらっている気持ちになった。」など、の声が聞かれました。

4. 今後について

当社は、震災の記憶を風化させることなくより一層復興支援の輪が広がるよう、チームふくしまとともにひまわりの生育・開花を今後各地で展開していくことを検討しており、これらの事業を通じてSDGs達成に貢献していきます。





ひまわりの種蒔きの様子



ゴッホの「ひまわり」の前で合唱



ゴッホの「ひまわり」の前で記念撮影

以上